

## アメリカ空軍第4偵察飛行隊の横田飛行場への移転について（要請）

令和8年5月28日、防衛省北関東防衛局から、「グローバル・ホークを運用するアメリカ空軍第4偵察飛行隊をグアムのアンダーセン空軍基地から横田飛行場へ順次移転させる。本年の夏から人員及び装備品の移転を開始する」などの説明を受けた。

グローバル・ホークについては、横田飛行場への一時展開が3年以上継続していることから、常駐化を含む今後の運用が強く懸念されてきたところであり、横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会は、今後の運用などについて、迅速かつ正確な情報提供を行うこと等を繰り返し求めてきたところである。

米側の説明では、「現下の安全保障環境を踏まえ、我が国周辺におけるISR態勢を一層強化する観点から、部隊運用面の効率性や即応性等を総合的に勘案した結果」とのことである。安全保障に関することは国の専管事項であるが、米軍の運用に際しては、基地周辺住民の生活への最大限の配慮が必要である。

貴職においては、このような状況を十分認識され、下記のとおり要請する。

## 記

- 1 部隊移転に関する具体的なスケジュールや運用などの情報について迅速かつ正確に情報提供すること。
- 2 安全対策を徹底するとともに、騒音など基地周辺住民の生活環境への影響を最小限にとどめること。
- 3 新たに配属となる軍人、軍属等の教育訓練と規律の保持を徹底すること。
- 4 以上の内容について、米軍に対して強く働きかけるとともに、部隊移転に伴う基地周辺地域の負担増加に対する軽減策を講ずること。

令和8年5月29日

}	外務大臣	茂木 敏充 殿
	防衛大臣	小泉 進次郎 殿
	北関東防衛局長	池田 真人 殿

東京都知事 小池 百合子

# アメリカ空軍第4偵察飛行隊の 横田飛行場への移転について

令和8年5月

防 衛 省  
外 務 省

## 背景

- 我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増し、周辺国の軍事活動が活発化する中、情報収集・警戒監視・偵察（ISR）活動はますます重要。
- 特に、優れたISR能力を有する米軍との協力は、我が国の安全確保の観点から極めて重要であり、米軍は、平成26（2014）年以降、我が国周辺におけるISR活動のため、グアムを拠点としつつ、米空軍の無人偵察機グローバル・ホークを日本に一時的に展開。
- 横田飛行場においても、令和5（2023）年5月以降、グローバル・ホーク3機を一時的に展開し、所要人員として約100名規模を配置しているところ。（現在、グアムに一時展開中）

## 米側からの新たな情報

米側から次のとおり説明あり。

- 現下の安全保障環境を踏まえ、我が国周辺におけるISR態勢を一層強化する観点から、部隊運用面の効率性や即応性等を総合的に勘案した結果、**グローバル・ホークを運用するアメリカ空軍第4偵察飛行隊をグアムのアンダーセン空軍基地から横田飛行場へ順次移転させる**。本年の夏から人員及び装備品の移転を開始する。

### 【本移転の概要について】

- ・ 配備されるグローバル・ホーク（RQ-4B）は3機
- ・ 人員配置 約150名規模（従来の一時的展開で配置されている約100名を含むため、純増は約50名規模）
- ・ 横田飛行場の面積や施設の拡張なし
- ・ 新たな施設建設は行わず、横田飛行場内の既存施設を活用し、必要な改修を行った上で使用

## 移 転 の 意 義

現下の安全保障環境を踏まえると、我が国周辺地域における日米の情報収集・警戒監視・偵察（ISR）活動を一層強化する必要があり、今般の部隊移転は、アメリカによる我が国防衛への揺るぎないコミットメントを示すとともに、日米によるISR活動の強化をもたらす、我が国の安全保障にとって極めて有益なものと考えている。

## 地 元 へ の 影 響

横田飛行場において新たにグローバル・ホークが移転・運用されることになるが、

- ・当該機体については、これまでも一時的な展開をしていた機種であること
- ・騒音の影響は小さい機体であり、直ちに騒音の影響が大きく増加するものではないこと
- ・偵察用に開発された機体であり、非武装のアセットであること

などから、横田飛行場周辺に与える影響は大きく変化するものではないと認識している。

しかし、今般のグローバル・ホークが移転・運用することはグローバル・ホークの横田飛行場への常駐による基地配備アセットの増強であると認識している。

## 防 衛 省 の 取 組 み

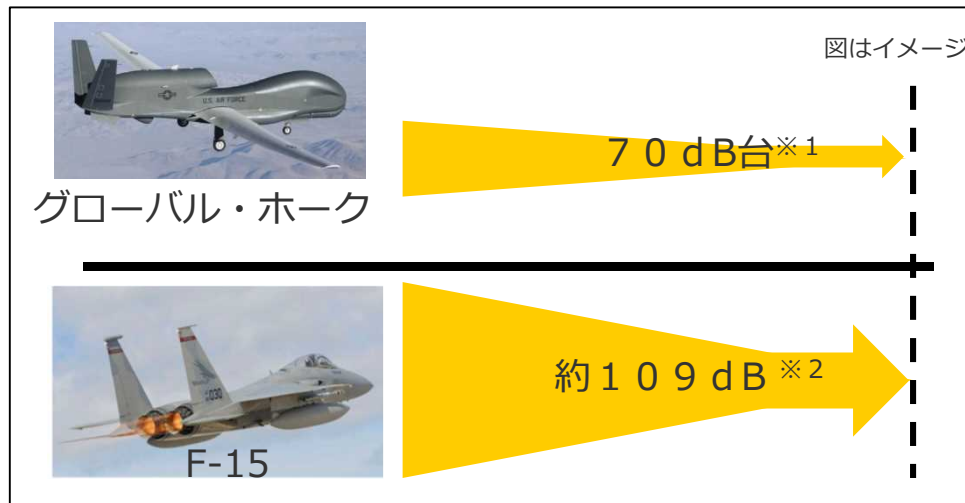
防衛省としては、我が国を取り巻く安全保障環境と、横田飛行場がおかれている状況を総合的に勘案すれば、今回のような、部隊、装備及び人員等の追加を含む横田飛行場の態様の変化はやむをえないものと認識している。

引き続き、米側に対し、騒音規制措置を遵守し周辺住民に与える影響を最小限に留めるよう最大限努力するようしっかりと申し入れていくとともに、米側から得られた情報について関係自治体に対して可能な限り速やかに情報提供を行い、基地周辺住民のご負担が少しでも軽減されるよう、基地周辺対策等に引き続き取り組む所存である。

# 騒音について

- ▶ グローバル・ホークは、比較的小型の民間航空機に使用するジェットエンジンの派生型エンジンを使用していることから、戦闘機等に比べ、**周辺地域への騒音の影響は少ない。**
- ▶ 離着陸時の、**最大騒音レベル**は、**70 dB台**（三沢での実測値も70 dB程度）。

## 騒音比較







※1 航空自衛隊グローバル・ホークの騒音値（最大騒音レベル）を三沢飛行場の滑走路の西側の端に設置している航空機騒音自動測定装置により測定

※2 平成19年那覇防衛施設局（当時）が計測

## 騒音の大きさの目安

騒音の大きさ	目安
110	ロックコンサート 自動車の警笛（前方2m）
100	電車通行時のガード下
90	騒々しい工場内 怒鳴る声
80	地下鉄電車内 バス車内 電話が聞こえないレベル
70	騒々しい街頭 電話のベル 騒々しい事務所内
60	静かな街頭 静かな乗用車内 普通の会話

## グローバル・ホークと他の航空機との比較

機種名	グローバル・ホーク 	MQ-4 	MQ-9 	F-15 
全幅	約40m	約40m	約20m	約13m
全長	約15m	約15m	約11m	約19m
全高	約5m	約5m	約4m	約6m
最大離陸重量	約12t	約15t	約5t	約31t
運用速度	約570km/h	約590km/h	約330km/h	約3,000km/h
航続距離	約23,000km	約15,000km	約8,500km	約5,700km
滞空時間	約36時間	約30時間	約30時間	約5時間
運用高度	約15,000～20,000m	約15,000～17,000m	～約15,200m	～約19,800m
離着陸時騒音	70dB台※ 1	70dB台※ 2	約75dB※ 3	約109dB※ 4
初飛行	1998年	2013年	2001年	1972年

※ 1 航空自衛隊グローバル・ホークの騒音値（最大騒音レベル）を三沢飛行場の滑走路の西側の端に設置している航空機騒音自動測定装置により測定

※ 2 昨年、嘉手納飛行場で展開した際に沖縄防衛局が設置した航空機騒音自動測定装置により測定

※ 3 同型機であるMQ-9Bの実測値

※ 4 平成19年那覇防衛施設局（当時）が計測

資料源：Jane's Unmanned Aerial Vehicles and Targets Issue37、米空軍FACTSHEET、General Atomics Aeronautical System社パンフレット、Northrop Grumman社パンフレット、FAA Advisory Circular 36-3H 05/25/2012 等

# 無人機のサイズ比較

